

国際招聘プログラム International Visitors Program

東京の文化の今を世界に向けて発信するための国際招聘プログラム。東京クリエイティブ・ウィーク期間中、世界各国の若手の芸術・文化関係者を東京に招聘します。東京文化発信プロジェクトなどさまざまな文化事業や都立文化施設を視察し、関係者との意見交換や交流を重ねます。

FUTURE SKETCH 東京会議での議論にも参加します。若手プロフェッショナルの眼を通した東京の文化の今が各国・各地域の専門家のネットワークやメディアにて発信され、国際ネットワークづくりにもつなげます。



コ・ジュヨン
Jooyoung Koh (韓国)
韓国アーツ・マネジメントサービス
セゾン文化財団ヴィジティング・フェロー



ジュン・ズビラガ=ポウ
Jun Zubillaga-Pow (シンガポール)
音楽評論



マリア・クリスティーナ・ディデロ
Maria Cristina Didero (イタリア)
デザイン専門キュレーター、ジャーナリスト



アシシュ・マハジャン
Ashish Mahajan (インド)
サライ・プログラム
Centre for the Study of Developing Societies



ウヴェ・ゲッセル
Uwe Gössel (ドイツ)
ベルリン演劇祭・国際フォーラム責任者



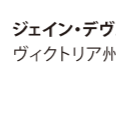
レイン・チャプリンスキー
Lane Czaplinski (米国)
On the Boards フェスティバル芸術監督



レオ・シュー
Leo Xu (中国)
キュレーター、ライター



シルヴィア・ペトロヴァ
Silvia Petrova (ブルガリア)
ドラマトウレグ、ジャーナリスト



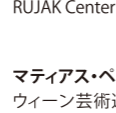
ジェイン・デヴェリー Jane Devery (オーストラリア)
ヴィクトリア州立美術館現代美術部門



エイサ・ジョクソン
Eisa Jocsón (フィリピン)
ボールダンサー、リサーチャー、ライター、美術家
photo by Brendan Goco



ミキ・ブランニシュテ
Miki Braniste (ルーマニア)
Colectiv A ディレクター



マルコ・クスマウィジャヤ Marco Kusumawijaya (インドネシア)
RUJAK Center for Urban Studies ディレクター

マティアス・ペース Matthias Pees (オーストリア)
ウィーン芸術週間演劇部門チーフドラマトウレグ

アクセス情報



【国際交流基金 JFICホール「さくら」】 JFIC Hall "SAKURA", The Japan Foundation
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1 Tel: 03-5369-6071 (欧州・中東・アフリカチーム)
4-4-1 Yotsuya, Shinjuku ward, Tokyo
●東京メトロ丸の内線 四谷三丁目駅1番出口 から徒歩3分
[Tokyo Metro Marunouchi Line] 3-minute walk from Yotsuya-3chome station No.1 Exit



【秋葉原コンベンションホール】 AKIHABARA Convention Hall
〒101-0021 東京都千代田区外神田1丁目18-13 秋葉原ダイビル 2F Tel: 03-5297-0230
Akihabara Dai Building 2F, 1-18-13 Kanda, Chiyoda ward, Tokyo
●JR秋葉原駅徒歩1分 [JR] 1-minute walk from Akihabara station
●つくばエクスプレス秋葉原駅徒歩3分 [Tsukuba Express] 3-minute walk from Akihabara station
●東京メトロ日比谷線秋葉原駅徒歩4分 [Tokyo Metro Hibiya Line] 4-minute walk from Akihabara station

参加申込み

- 参加費 ……無料
- 申込方法 ……メールとFAXで受付 (申込者多数の場合は抽選)。
お一人様一回につき2名まで応募できます。必要事項 (代表者の①住所、②氏名・ふりがな、③連絡先 (電話番号、FAXまたはE-mail)、④希望日、⑤参加希望人数) を明記の上、次の通りお申込み下さい。
【メールの場合】件名を「東京会議参加希望」とし、本文に必要事項を記入の上、sketch@c-linkage.co.jp に送信。
【FAXの場合】宛名に「東京会議事務局」と明記し、必要事項を記入の上、FAX: 03-3263-8693 に送信。
※抽選の結果は10月21日頃までに、メール・FAXで通知します。
※結果通知後、当選の場合には代表者に「参加証」を郵送します。
当日、参加証をご持参ください。
※お一人様、各日一回限りの応募になります。
- 申込締切 ……10月20日 (木) 当日受信有効
- 宛先・問合せ ……東京会議事務局
〒102-0075 東京都千代田区三番町2 三番町KSビル 3階
電話: 03-3263-8695 (平日9:30~18:00) / FAX: 03-3263-8693
メール: sketch@c-linkage.co.jp

Application

- Participation Fee: Free
Up to two applicants for one application
By E-mail or FAX
- FAX: Write "To Secretariat for Tokyo International Conference," specify the necessary items, and send to +81-3-3263-8693.
- E-mail: Write "To Secretariat for Tokyo International Conference" in the subject column, specify the necessary items in the text area, and send to sketch@c-linkage.co.jp.
- Necessary Items
1. Zip code and postal address 2. Name 3. TEL, FAX or E-mail 4. Date(s) of participation
- Deadline: October 20th
- Contact:
Secretariat for Tokyo International Conference
3rd floor, Sanbancho KS bldg., Sanbancho 2, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0075
E-mail: sketch@c-linkage.co.jp Tel: +81-3-3263-8695 Fax: +81-3-3263-8693



東京文化発信プロジェクト

FUTURE SKETCH Tokyo Conference

FUTURE SKETCH 東京会議 Oct. 28 Fri./29 Sat. 2011

開催趣旨

TOKYO FUTURE SKETCH ~日本の未来のために、文化ができること~

震災後の日本において文化・芸術がどういう意味を持ち、何ができるのか、文化を通してどのような未来を描けるのか、新しい社会のありかたと未来について模索し、新しい創造的社会的形成のモデルを提案するため、10月20日~30日の「東京クリエイティブ・ウィーク」期間中に「FUTURE SKETCH 東京会議」を開催いたします。同期間中に「国際招聘プログラム」を実施することで、「世界的な文化創造都市・東京」を国内外により強く発信いたします。



FUTURE SKETCH Tokyo Conference is held in two locations in Tokyo, in response to the difficulties and dangers in the reality since 3/11, to discuss and explore the significance and power of the arts and culture, a new model of society, and our future.

テーマ1 [新しい社会をデザインし、新たなつながりをつくるために]
For New Society Designing and for Making New Linkages

- 開催日時 10月28日 (金) 13:30開場 14:00開会
Fri. October 28th Start: 14:00
- 会場 国際交流基金 JFICホール「さくら」 日英同時通訳/定員100名
JFIC Hall "SAKURA", The Japan Foundation
- 司会 津田 大介 (ジャーナリスト)

テーマ2 [3.11以後の文化の力]
Power of Culture After 3.11

- 開催日時 10月29日 (土) 13:00開場 13:30開会
Sat. October 29th Start: 13:30
- 会場 秋葉原コンベンションホール 日英同時通訳/定員250名
AKIHABARA Convention Hall
- 司会 加藤 種男 (公益財団法人 東京都歴史文化財団エグゼクティブ・アドバイザー)

- 主催: 東京都、東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人 東京都歴史文化財団)
Organization: Tokyo Metropolitan Government, Tokyo Culture Creation Project (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)
- 助成・協力: 国際交流基金
Supported by: The Japan Foundation



東京文化発信プロジェクトとは…

東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。都内各地での文化創造拠点の形成や子供・青少年への創造体験の機会の提供により、多くの人々が新たな文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、国際フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。
<http://www.bh-project.jp>

テーマ1

[新しい社会をデザインし、新たなつながりをつくるために]

For New Society Designing and for Making New Linkages

震災直後の混乱の中、有益な情報メディアとして大いに注目されたソーシャル・ネットワークを中心に、海外の事例やアーティストの意見なども取り入れながら、若手を中心に討論します。

基調講演者として、ニュージーランド地震の際にクライストチャーチの学生が始めたボランティア活動、「UC Student Volunteer Army」の創設メンバーの一人であるジーナ・スカンドレット氏をお迎えします。その後、国内外の若手アーティスト等を交えて、震災後の若者の行動が社会へ与える影響や、個々の行動が新たなつながりを形成し、地域における運動に発展する可能性について、津田大介氏を司会者に迎えて議論します。

A journalist Daisuke Tsuda and young panelists focus on the social networking systems, which were capable as information media in the middle of the disorder immediately after the earthquake and drew considerable attention, in this discussion also making reference to examples in other countries and hearing from artists.



ジーナ・スカンドレット
Gina Scandrett (ニュージーランド)

2008年よりカンタベリー大学で社会学・言語学・心理学を学ぶ。2010年9月4日のクライストチャーチ地震の際、カンタベリー大学の学生サム・ジョンソンが主導した学生復興支援組織「UC Student Volunteer Army」創設メンバーの一人。



遠藤 一郎
Ichiro Endo (日本)

未来美術家。「GO FOR FUTURE」のメッセージを伝えるために、人々に夢を書き込んでもらいながら走る「未来へ号」で各地をまわる。商店街のシャッターに絵を描き、仮設住宅の表札をつくるなどの交流の場「石巻ワンダー横丁」を進行中。

撮影：川内章弘

■ **開催日時** 10月28日(金) 13:30開場 14:00開会
Fri. October 28th Start: 14:00

■ **会場** 国際交流基金 JFICホール[さくら]
JFIC Hall "SAKURA", The Japan Foundation

■ **司会** 津田 大介

■ スケジュール

14:00 **基調講演**
「UC Student Volunteer Army 創設の経緯と活動の展開」
Keynote Address "UC Student Volunteer Army - How it started and how it developed"
ジーナ・スカンドレット Gina Scandrett

14:30 **パネルディスカッション** Panel discussion
マルコ・クスマウィジャヤ
ジーナ・スカンドレット
遠藤 一郎

17:00 **終了予定**



マルコ・クスマウィジャヤ
Marco Kusumawijaya (インドネシア)

建築、環境、都市研究、文化に総合的に関わる。前ジャカルタ芸術協会所長。スマトラ島沖地震復興プログラムを進めた。現在はよりよきジャカルタのために知識やノウハウを共有するRUJAK Center for Urban Studies ディレクター。



津田 大介
Daisuke Tsuda (日本)

東京都出身。ジャーナリスト、メディア・アクティビスト。ネット、音楽、ハード、マルチメディア系の記事を執筆する。日本におけるTwitterジャーナリストの第一人者。早稲田大学大学院政治学研究科ジャーナリズムコース非常勤講師。

テーマ2

[3.11以後の文化の力]

Power of Culture After 3.11

3.11の震災と原発事故を踏まえ、これからの社会や未来をどのように描いていくか、文化や芸術はそのプロセスにおいてどのような意味を持ちうるか、などをテーマに、28日の議論もふまえながらディスカッションを展開します。

日本近現代史専門のテッサ・モーリス=スズキ氏は、外からみた震災後の日本について、また、ジャカルタで活動しているマルコ・クスマウィジャヤ氏は、実際に災害復興に関わった経験や海外での研究・国連ワークショップ参加等の経験をもとに、文化・災害・未来・大都市という4つのテーマについて基調講演をします。

その後、国内外のアーティスト等によるパネルディスカッションでは、震災後の様々な困難の中で文化・芸術の持つ意味と力について改めて考え、新しい社会のありかたと未来について模索し、新しい創造的的社会形成のモデルを提案します。

A discussion on how to draw the society to come and the future as well as the roles of the arts and culture in the process of recovering from the 3/11 earthquake disaster and nuclear accident, based on the discussion on October 28th.



テッサ・モーリス=スズキ
Tessa Morris-Suzuki (オーストラリア)

オーストラリア国立大学教授。日本近現代史。イギリス生まれ。元一橋大学客員教授。アジア市民権ネットワーク共同代表。『批判的想像力のために グローバル化時代の日本』(平凡社, 2002年)、『愛国心を考える』(岩波ブックレット, 2007年)など。



オウ・ニン
Ou Ning (中国)

アーティスト、キュレーター、批評家、エディター、デザイナー、アクティヴィスト。深圳&香港ビエンナーレ(2009年)チーフキュレーター。非営利文化企画制作実施団体Shao Foundationディレクター。今年雑誌Chutzpahを創刊。

撮影：Nie Zheng(Beijing)

■ **開催日時** 10月29日(土) 13:00開場 13:30開会
Sat. October 29th Start: 13:30

■ **会場** 秋葉原コンベンションホール
AKIHABARA Convention Hall

■ **司会** 加藤 種男

■ スケジュール

13:30 **基調講演**「震災後の日本に寄せて」
Keynote Address "For Japan after the Earthquake"
テッサ・モーリス=スズキ Tessa Morris-Suzuki

14:00 **基調講演**「文化、災害、そしてエコ都市の未来とは?」
Keynote Address "Culture, Disaster, and a Future for Eco-Metropolis?"
マルコ・クスマウィジャヤ Marco Kusumawijaya

14:30 **パネルディスカッション** Panel discussion
テッサ・モーリス=スズキ
マルコ・クスマウィジャヤ
マティアス・ペース
オウ・ニン
大友 良英
津田 大介

17:30 **終了予定**



マティアス・ペース
Matthias Pees (オーストリア)

ウィーン芸術週間演劇部門チーフドラマトゥルグ、ベルリン・フォルクスビューネ、ハノーファー州立劇場などのドラマトゥルグを歴任、ブラジルでも活動。ウィーン芸術週間やベルリン・HAU劇場の南米プログラムの企画を手掛ける。



大友 良英
Yoshihide Otomo (日本)

ターンテーブル奏者、ギタリスト、作曲家として世界各地で活躍。常にインディペンデントなスタンスで活動し、多くのアーティストとともにコラボレーションを行う。今年5月「プロジェクトFUKUSHIMA!」を立ち上げる。



加藤 種男
Taneo Kato (日本)

90年よりアサヒビールの文化社会部門を担当し、企業メセナ活動をリード。創造都市を推進し、文化政策も積極的に提言。アサヒビール芸術文化財団事務局長、企業メセナ協議会理事。2010年より東京都歴史文化財団エクゼクティブ・アドバイザー。

撮影：中村佳代子